



和奇家抄

和奇式
定家

伊地知文庫
文庫20
315
1



文庫20
315
1

あらんらんやいはいやうまふむへいこのそ
 ことらまて侍へんまあうかほあつては
 けうよたひひれまああまあつまは
 さふれふもがくさう河うあ所い
 尺と御一まてんあまふまのいとながわ
 やまうこのみちあされまてゆうやまは
 あくわういれんあまあ人又ううま
 ひうあまうやうまうまうまうまう
 まうまうまうまうまうまうまうまう
 御情妖艶の神とまうまうまうまうまう



泉かみおししつそそおなまうしつひつそそ
もゆしつりしつそそあしつそそおし
そそしつりそそそえをうしつそそ
今らひ絲しつりそそしつりそそ
うしつりそそしつりそそしつりそそ
しつりそそしつりそそしつりそそ
ひて寛平しつりそそしつりそそ
しつりそそしつりそそしつりそそ
しつりそそしつりそそしつりそそ
あしつりそそしつりそそしつりそそ

とやかりのちかおしつりそそしつりそそ
五つ七五のちかおしつりそそしつりそそ
おしつりそそしつりそそしつりそそ
おしつりそそしつりそそしつりそそ
おしつりそそしつりそそしつりそそ
おしつりそそしつりそそしつりそそ
おしつりそそしつりそそしつりそそ
おしつりそそしつりそそしつりそそ
おしつりそそしつりそそしつりそそ

二五

五

物くるうと

とりのりて

神をらて

月やあまを

さくちあま

のりて

今よのせ

のりて

のりて

のりて

Handwritten text in a rectangular box, likely a translation or transcription of the text on the opposite page.

大徳言経行名

夕なれい門田乃橋美ふそいしまうく
わいのまらわやいーあさこのせそあ
君の代にほろーとそらふに祢馬や
凡そすそ川のをもきんりうらりい
沖津の女あさよらーかすーい此
ねのーつえとあぬー波

後頼朝后

ふさうーされそあーらりひさうーら
平井よ乃ゆふ流乃ー系

にら陸津八すうら川乃そやとれし
思ふすうらそいふ世のうすうそ

これいそこのうそ秀平の中津と
しんきいや

らうらうゆれ入は乃ら海風り
尾花乃らうらふあれたのゆしとれ
あふさそいあらふもみら葉よらうあそ
形乃ーはよーあれたそそうく
これい海玄よゆらうけうすういひ
しんきいゆら

あすもうらん時流のま川を流してて
 多行する浪に一月やとわりたり
 けりひきよき末き一じとひとひと流の
 ちとてきこひいひとひとひとひとて
 ころのけりしちてりおありおよぬ
 ちとてきこひいひとひとひとひとて
 うりけりかへんよころそのふたりしよ
 とけりしとてきこひいひとひとひとて
 ろりけりかへんよころそのふたりしよ
 勝れぬとてきこひいひとひとひとて

あつこいこと

あつこいこと
 多行する浪に一月やとわりたり
 けりひきよき末き一じとひとひと流の
 ちとてきこひいひとひとひとひとて

歌補

うりけりかへんよころそのふたりしよ
 とけりしとてきこひいひとひとひとて
 ろりけりかへんよころそのふたりしよ
 勝れぬとてきこひいひとひとひとて

法橋約信

冬ふゆのころ乃くらき雲れ霧のくもり
 母らくふ月の子ののちやひさ
 君とすの知らるや梅らんこのしれ
 心色もまはやくいぢあや
 難波人まてくまののちのまて
 久い運あまのあまなりなり
 かりくいのふのはやーれんま
 うしとまてくまののちのまて

其巻後

あまのあまののちのまて
 のちのまてのあまののちのまて
 らんりまてのあまののちのまて
 あまのあまののちのまて

先人

ままのあまののちのまて
 花乃君らぬらるあまののちのまて
 世の中よるまてのあまののちのまて
 心乃ゆくあまののちのまて
 ままのあまののちのまて

東鑑九日

永元二已巳年

八月二十日所教遣
京極中將延喜
朝臣之御教加
合點返進又殿
詠歌口傳一卷是
六我風體事內
依被尋御代
將軍實朝御代

永元之此自征夷將軍依先人所注
送之秘本也

弘長二年九月老後更書寫之

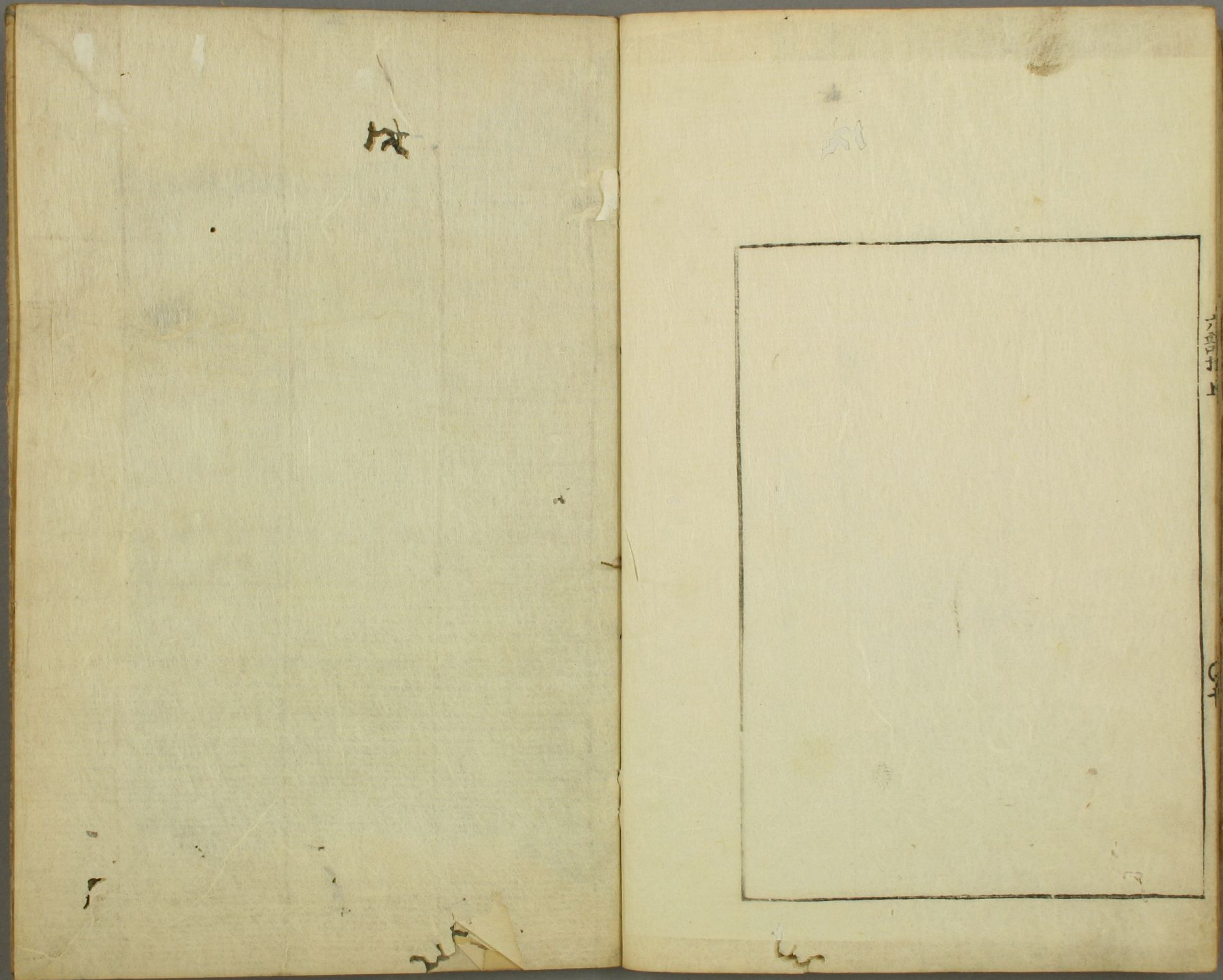
三代撰者桑門融覺

判在

以祖父入道大納言自筆本令書寫
最可為證本矣

泰議藤原為房

判在



五

六

六
上

六

